

朋友

第28号

 2022(令和4)年
3月31日発行

発行所

 京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 倉石 功

「朋友」とは、同信のなから。
2008(平成20)年4月の仏教
壮年会連盟発足にあたり、
仏社会員が力を合わせ、とも
に歩みを進めていこうという
願いから名づけられました。

2021(令和3)年度 仏教壮年会連盟 第1回評議員会

専如ご門主 お言葉

1月29日(土)に第1回評議員会が開催され、開会式において、専如ご門主より、動画でお言葉をいただきました。

皆さまには、2021年度仏教壮年会連盟第1回評議員会によるこそご出席くださいました。

また、日頃より仏教壮年会連盟をはじめ各単位会、教区、特区、組において、仏教壮年会活動にご尽力いただいておりますことに敬意を表し、感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行からすでに2年が経過いたしました。依然として収束が見通せない状況が続いております。お亡くなりになられた国内外のすべての方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さま、後遺症を患われている皆さまに心より

お見舞い申し上げます。また、治療・対策などにあたられているエッセンシャルワーカーの方々に深く敬意と感謝を表します。

今回の新型コロナウイルス感染症によって皆さまの仏教壮年会活動も、少なからず影響を受けておられることと思います。感染対策を講じつつ行事を縮小されたり、本評議員会のようにオンラインを活用されたりするなど、状況に応じて様々な工夫をされながら活動を進めてくださっている皆さまのご熱意とご苦労に改めて敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症の影響が長引くことで、多くの方が先行き

への不安や悩みを抱えていらっしゃると思いますが、どのような状況にあっても、凡愚の身の私たちをそのまの姿で摂め取ってくださいさる阿弥陀さまの摂取不捨のおはたらきが、大きな安心となつて私たちを支えてくださいます。皆さまには今後とも阿弥陀さまのおはたらきを依りどころとして、力強く生き抜くことのできるみ教えに出遇えた喜びを、ご縁ある方々に伝えて朋友の輪を広げていただき、自他ともに心豊かに生きることでできる社会の実現に大きく貢献されますことを願っております。

来年、2023年には、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えいたします。仏教壮年会連盟においても法要参拝や記念行事を企画していただいていると伺っており、慶讃法要のご勝縁を皆さまと共に迎えできるのを楽しみにしております。

今後とも、各地における

仏教壮年会活動が一層盛んになりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



開会式での倉石理事長ご挨拶



開会式での武野副会長ご挨拶



浄土真宗本願寺派総合研究所 丘山願海所長による「浄土真宗のみ教え」についての法話

令和3年度 仏教壮年会連盟 中央研修研修会(オンライン開催) 受講現地レポート

広報委員会委員

谷口

寿



この歳で今さら聞けない浄土真宗のみ教え

皆さん、作法はできていますか お給仕の心得

令和4年1月29日(土)広報委員会において、2月12日(土)にオンライン開催される中央研修会の受講の様子を『朋友』に記事掲載することになりました。

石川教区鳳珠組松岡寺(波佐谷真充住職)にて、鳳珠組仏教壮年会連盟3名の会員が集い受講されること。取材移動が石川県内と容易であることから私がお伺いさせていただきまし

た。(全国で35名が受講)

当日、石川県能登半島にある松岡寺への移動中の道路脇では、積雪30センチ程、道路は除雪がされスムーズで、さらに松岡寺周辺はとも積雪が少なく、本堂には雪囲いがあります。また、研修には、組長の弘崎信正様のご参観をいただきました。

皆さん、初めてのオンラインによるお聴聞とのことでしたが、ご講師の北山祐章先生のご法話には、「パソコンからの音声に慣れると良く理解できた」との感想がありました。

次にお仏壇の荘厳としての「仏華実演講義」があり「有限会社花新」代表取締役であられる水本高史様の実演映像により学びを深めさせていただきました。

仏華には、真やひかえ、そえ、うけという役割の位置があり、それぞれに、松、紅あかめやなぎ、菊等の花やルスカスという葉を生ける実演は、初めて知る貴重な体験となりました(写真①)。

その後は、6つの班別による話し合いで、班ごとにテーマがありました。テーマは、大きく「合掌の作法」、「お焼香・お参りの作法」、「お荘厳、お仏飯」、「み教えについて」で、冒頭にご講師の谷間徹誠先生による根本のご講義

をいただきました。

松岡寺の受講者は、6班に入り「他力本願の教え」がテーマで、座長は、戸田勲研修委員長が務められました。

座長は、世間的に言う「自力や他力」と「他力本願」につい



写真① 仏華実演講義の様子



写真② 中央研修会 受講の皆さん

「ウクライナ緊急支援募金」募集について

浄土真宗本願寺派では、ロシアの軍事侵攻により避難生活を余儀なくされているウクライナの人々を支援するための募金を募集しております。

詳細は宗派ホームページをご覧ください。



の思いを班員の皆さんより、「上手に引き出されて、分かりやすくまとめられた」と受講の皆さんよりの評価があり、全6班の班別発表を終えました。

最後になりますが、松岡寺様、鳳珠組仏教壮年会連盟の皆さんに大変お世話になりましたことに感謝申し上げます。また、私自身にも貴重な機会となりましたことに厚くお礼を申しあげます。

「願いが転じられる世界」

岐阜教区 飛騨組 神通寺住職

朝戸 臣統 あさと たかつな教区における親鸞聖人御誕生850年・立教開宗
800年慶讃法要協賛行事にかかる特命布教講師

「新型コロナ、いつまで影響が続くんだろう。いつになったら不安な日々が終わるのだろう。」

2年以上前から、ずっとそんな思いを抱えていますか。

では、今からおよそ850年前、親鸞さまご生誕の頃はどんな時代だったのかというと、天変地異や飢饉、疫病などに襲われた、壮絶な時代でありました。

当時、鴨長明が「方丈記」に記した、京の災害の出来事と、幼少期の親鸞さまの年齢を重ねてみますと、大火(5歳)、竜巻(8歳)、飢饉(9~10歳)、大地震(13歳)に遭われているのです。

中でも、飢饉の翌年は疫病が大流行し、法師が弔いながら数えた死者数は、京の中心部だけでも、2ヶ月間で42、300人余りになった、とのこと。

そんな、壮絶な状況の中で幼少期を過ごされた親鸞さまは、9歳で得度され、比叡山に上られました。

これは私の想像なのですが、幼き親鸞さまは、飢饉や疫病などで絶望にあえぐ民衆をご覧になり、何としても救いたいと願われたのではないだろうか。苦しむいのちを救う仏法を求めたいと願われ、仏門に入られたのではないだろうか。そう思うのです。

若き頃の親鸞さまは、あらゆるいのちが救われ、苦悩を超えていく道を探し求めて、仏道修行に励まれましたが、どんなに自らの努力や功德を積み重ねても、答えを見出すことはできませんでした。

29歳で山を下り、法然さまのもとで他力念仏のみ教えにであわれ、「願い」の方向を転じていかれたの

です。

私が功德を積み重ね、願いを叶えていく仏道ではなく、「全てのいのちを救う仏に成る」という願いを成就された南無阿弥陀仏のお心を、そのまま聞かせていただく、他力念仏のみ教えにであわれたのです。

その後、念仏弾圧、越後ご流罪、法然さまのご往生、関東移住などを経ながら、52歳の頃に、全6巻に及ぶ『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』を完成され、法然さまから聞かせていただいた、阿弥陀さまの願いにであえたよろこびを、経典や論釈によって体系化されたのです。

そのおかげさまで、私たちが浄土真宗の他力念仏のみ教えをいただくことができますから、「立教開宗」と定め、大切にするのですね。

やがてそれから、800年の年月

が経とうとしている今、目に見えないウイルスが私たちの日常を制約し、不安な日々が続いています。

親鸞さまは、私の願いをどう叶えるか、ではなく、阿弥陀さまの願いをどう聞かせていただくのか、ということが大切だと示されます。

「あなたを救う仏に私が成る」との願いを完成され、南無阿弥陀仏となつて私に入り満ちてくださっているのです。

不安や恐怖でどんなに苦しいときも、あなたの全てをわかっている仏がここにおるよ。

南無阿弥陀仏と我が名を喚んでおくれ。称えるまま、聞こえるままに、私にまかせておくれ。

南無阿弥陀仏のお心は、不安や苦悩を抱えた私の全てをわかってくださり、お念仏申すなかで、私に寄り添い続けてくださっているのです。

2021(令和3)年度 中央研修会に關して思ったこと

研修委員会委員

夏目 健之助(福井)



本来であれば本山に集まって1泊2日で行わ

れている研修であります。新型コロナウイルスの感染状況の悪化もあり、フルオンラインでの1日研修という事になりました。今回各教区より参加された方々にとって、今までと違う形ではありますが、中身の濃い研修になられたのではないかと思います。

普段の生活の中で、家にお仏壇があるご家庭ではいつも行っていると思われる、お仏飯、荘厳、焼香等について、作法、お給仕の仕方が合っているのか疑問に思われている方々も、ご法話や仏華実演、班別の話し合い、まとめの講義をいただき、様々に気づかせていただくことができたのではない

いかと思います。

私自身も普段から行っていた作法について、間違った点も見つけられ、気づかせていただくことが沢山ありました。

今後も浄土真宗のみ教えをいただき、浄土真宗の生活信条を基本とし、念仏者としてあるべき姿を実践していき、自身の愚かさに気づかせていただくことに「南無阿弥陀仏」と称え日々感謝する次第であります。

最後に今回の研修にあたり、関係者各位様のご苦勞も多々あったと思います。

感謝の意を表すとともにこれからも仏教壮年会の活動に御尽力いただきます様にお願いいたします。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要記念 「第24回 全国仏教壮年大会」について

テーマ 聖人のみ教えつないでお念仏申す 朋友の輪

基調講演講師 入澤

宗師

龍谷大学学長 備後教区御調束組善行寺住職

大会日程は、2023年4月15日(土)に全国

講演をいただく予定です。

今後、大会実行委員会で詳細を詰めてまいります。

の朋友とともに午後のご法要に参拝し、夕刻に懇親会を開催予定。4月16日(日)は午前中に大会行事を行い、その中で龍谷大学の入澤学長に基調

大会実行委員長

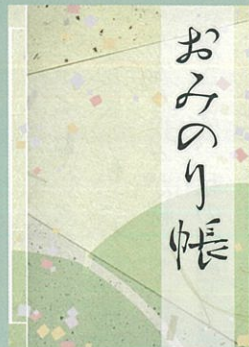
倉石

功

教材紹介

おみのり帳がリニューアル

- 全国の会員の皆さまにご好評でありました「おみのり帳」がリニューアルされました。一番の変更点は表紙がカラーになったことです！ぜひご購入いただき、自分だけの「おみのり帳」を作ってみませんか。
- 仏教壮年会連盟事務局にて販売



● 価格 100円(税込)

編集後記

大阪教区 西尾 豪士



新型コロナウイルス感染が拡大して2年以上が経過しました。社会への影響力の大きさから、「新型コロナウイルス感染が終息しても、苦しみを抱える人は今以上に増えている」という専門家もいます。

我慢を強いる日々が続いていますが、終息の日は必ず訪れます。そのとき、仏教として何ができるか、存在感を示せればと思います。大勢の人と大いに語り合い、交流を深め、朋友の輪を拡げていきたいものです。

「冬来たりなば春遠からじ」。

